



寒い季節もあったか

## 千葉市美術館に行こう♪

## ブラチスラバ世界絵本原画展 こんにちは! チェコとスロバキアの新しい絵本

スロバキア共和国の首都ブラチスラバで2年ごとに開催される、世界最大規模の絵本原画コンクールの巡回展です。日本と開催国ス



©L'uboslav Pal'o

リュボスラウ・パリヨ「僕の猫、タムタム」  
2017年 作家蔵

ロバキア、その隣国チェコとの交流100周年を記念して、両国の作家による原画作品や絵本を紹介します。あわせて第27回展の中から各国の受賞作家の作品を展示します。

また、今回金牌を受賞したきくちちきと日本から出品した15組の原画作品を展示するとともに、うち4組の作家

に焦点をあて、創作活動の背景を探る特集展示を行います。

**会期** 1月5日(火)～2月28日(日) (1月18日(月)は休室、2月1日(月)は休館)

**会場** 市美術館8階展示室

**観覧料** 一般1,000円 大学生700円

\*本展チケットで田中一村展も観覧できます。

### 関連イベント

市民美術講座「アトリエからはじまる旅—特集展示作家を中心に」

📅2月20日(土)14:00～15:30 13:30開場 📍11階講堂

👤当日先着80人

## 田中一村展 —千葉市美術館収蔵全作品

田中一村(1908-1977)は、千葉市に20年住み、50代になって奄美大島に移住し亜熱帯の花鳥や風土を題材にした独特の日本画を描いた画家です。

2010年に市美術館で開催した「田中一村 新たなる全貌」展から10年がたち、この間に市美術館に収蔵された田中一村の作品は寄託を含めて100点を超えます。2018年度には、一村の最大の支援者であった川村家より、残る作品・資料の寄贈などを受けました。

本展はそれらの全てを初めて一堂に展示し、画家の生涯の未知の側面を探ります。

**会期** 1月5日(火)～2月28日(日) (1月18日(月)は休室、2月1日(月)は休館)

**会場** 市美術館7階展示室 (受付は8階)

**観覧料** 一般600円 大学生400円



©2020 Hiroshi Niiyama

田中一村「アダン海辺」  
1969年 個人蔵  
市美術館寄託

### 新春の獅子舞

**日時** 1月5日(火)10:00～10:30 **会場** 1階さや堂ホール



学芸員が選ぶ

## 今月の★イッピン

きくちちき 《もみじのてがみ》

2018年 墨、水彩・和紙  
作家蔵



©きくちちき

絵本「もみじのてがみ」の原画の中から、最初のページとなるこの場面では、真っ赤なもみじの葉をくわえたつぐみが木々の上を飛んで行く様子が描かれています。鳥の視点で空から見下ろす景色はまだ青々として、次の季節の到来を知らせるもみじの赤とは対照的です。横に長い画面を左から右へ、小さな体でバランスを取りながら、つぐみが向かう先には何があるのでしょうか。

作者は、目にした自然の圧倒的な美しさに自信をなくしながらも手を動かし続けて、一つの物語を描きあげたそうです。コンクールでは、巧みな色彩によって輝きや動きにあふれた自然を表現していると高く評価され、金牌を受賞しました。墨や絵具のにじみもやわらかく、寒い季節の訪れすらも心躍るような、あたたかさのある作品といえるでしょう。

ブラチスラバ世界絵本原画展にて展示中



山根学芸員

📍市美術館 ☎221-2311 📠221-2316